

文化の香りと癒し・賑わいと観光・希望のまちづくり

国の史跡指定「米子城跡」を活かし

湊山球場地に、市立図書館など文化の「核」施設を市民の力で！

☆市立図書館を移転・新築、

6,000㎡の規模に、図書冊子数は58万冊へ、西部(外)一円の図書館利用を視野に、(現図書館の3倍)

☆伯耆古代博物館

展示面積5,000㎡に、山陰歴史館と福市考古資料館、淀江歴史民俗資料館を複合展示、(山陰歴史館の2.5倍)

☆文芸伝道館

文学、音楽、芸術、映画分野等の郷土輩出の作品、人生訓を展示

☆人形の館 米子の「宝」を展示

歴史と文化の交流「知楽の森」(案)



Q、市民提案の計画に大賛成です。でも、お金がありますか、財政が心配です！

A、財源は、合併特例債です。仮に、総事業費50億円とします。合併特例債を90%の45億円、この内25億円は国の交付金、残り25億円です。県の支援(10億円位)もお願いし、市負担は、15億円位です。市負担の元利償還は、年1億2,000万円程度になります。

又、市民債の活用もできます。但し、合併特例債は、H26年が期限です。

Q、借金返済も負の遺産とはならない！

H26年までの事業着手、可能ですか！

A、市の借金償還は、H28年以降大幅に減り、元利償還にゆとりができます。

計画の実現性は、国や県に顔の見える市長の誕生が決めてです。

市「文化創造計画」の見直しを求めて！

市「文化創造計画」は、米子市と淀江町との合併プロジェクト事業。当初計画の総事業費約36億円。市は、事業費の見直しを検討中。主な事業は、山陰歴史館の修繕と市立図書館、美術館の増改築に古代の丘整備とネットワークシステムなど。

この計画で、中心市街地の賑わいと交流人口が多く望めるのか！多額の税金投入に疑問！



市立山陰歴史館

延床面積2,030㎡

旧庁舎の建物は、展示空間に余裕のある施設ではない。

駐車場も不便。

☆市は、7億円の投入を計画。エレベーター、冷暖房などの施設整備に多額の税金を投入しても、展示スペースは拡がりません。投資のムダ！

市立図書館

延床面積2,000㎡

現図書館施設は、都市人口3万人規模。

図書冊子数23.7万冊。鳥取市は、県立と市立の図書館で99.5万冊

☆市立美術館との増改築に、17億円を投入しても人口規模の図書冊子数58万冊に程遠い！



市は、増改築に17億円！



もつたない！！
湊山球場の土地活用
市は、湊山球場を史跡指定区域に編入し、球場内の借地も、国の史跡事業の補助金で取得する構想。

この構想は、借地取得の土地代金のメリットのみで、土地の施設利用は制約される。史跡指定は、球場を取り壊し、堀や三の丸跡の復元、芝広場、東屋など史跡事業に類する土地利用にしか使えない。中心市街地の賑わいや交流人口効果は少ない。